

消化管造影検査を受ける患者さまへ

この度、消化管造影検査に使用しているお薬（造影剤：ガストグ ラフィ）が、安全性の確認作業のため、安定供給の見通しが立たない状況となっております。

薬品の確保に尽力致しましたが、残念ながら通常使用しているお薬（造影剤：ガストグ ラフィ）が、欠品となってしまいました。

しかし、患者さまに必要な検査を行う為、当院では代わりのお薬（造影剤）として、アメリカで承認され、使用実績がある以下の2種類のお薬を使用し検査を行います。

- ① イオヘキソール（商品名：オムニパーク）
- ② イオパミドール（商品名：イオパミロン）

※これらの医薬品は血管造影やCT 検査等を適応として承認されていますが、消化管造影検査における使用については国内添付文書上の効能・効果に含まれていないため、適応外使用に該当します。 また、15 歳未満の小児への経口投与・注腸投与は承認を受けている事例があります。

経口であるため、血管投与よりは副作用の発生率は低くなることが推測されます。

これらのお薬は、有効性や安全性に問題のないことが報告されております。

【使用方法】

- ・ 経口投与（消化管 X 線造影）：希釈せず 50～100mL 投与（検査必要量使用）
- ・ 直腸投与（消化管 X 線造影）：3～4 倍量の水で希釈し注腸検査（検査必要量使用）

※使用したお薬は、消化管を通過し、便として排出されます。

【予測される不利益】

- ・ ヨード系造影剤に対するアレルギー（かゆみ、じんま疹、呼吸困難、ショック等が生じる可能性があります）
- ・ 経口・注腸後の副作用として下痢、悪心、嘔吐、腹痛等 消化器症状の報告があります。
- ・ 国内における消化管投与の承認適応を有しない適応外使用であるため、副作用救済制度の対象外となる可能性があります。

【対策】

- ・ 投与前に問診を行い、ヨード系造影剤に対するアレルギーの既往を確認します。
- ・ 投与中・投与後は患者さまの状態を十分に観察し、異常が認められた場合は、当院のマニュアルに従い適切な処置を行います。

【費用負担】

- この検査等にかかる費用は通常の保険診療と同じです。この検査による副作用が生じた場合も保険診療になります。なお、国の副作用被害救済制度の対象とならない場合がありますのでご了承ください。

【お問い合わせ】

香川労災病院診療科担当医
0877-23-3111(代)

2026年9月14日
放射線業務運営委員会
医療安全管理委員会